

## 情報処理学会平成6年度功績賞

## 相磯秀夫君

あいそ ひでお

(昭和7年3月3日生)



相磯秀夫君は、わが国の計算機アーキテクチャ研究の草分けの一人として、通産省電気試験所においてきわめて早くから先端的アーキテクチャの研究に取り組み、電子計算機研究室長として成果をあげられました。

その後慶應義塾大学において、計算機アーキテクチャ、計算機ネットワーク、データベースシステム、ノーベルコンピューティングシステム等の先端的技術開発と計算機科学・計算機工学の教育研究に著しい成果をあげられました。さらに同大学において、将来の情報環境・教育環境のあり方を示すマルチメディア環境の具体化に多大な貢献をされました。

またこの間、国家プロジェクトを含む多くの社会的プロジェクトをリードし、情報処理技術の発達と情報化社会の発展に大きく寄与されてこられました。

一方、本学会においても、副会長、理事、計算機アーキテクチャ研究会主査等の要職を歴任され、学会の発展に多大な功績を残されるなど、情報処理分野の研究と教育に尽くされた功績は誠に顕著なものとあります。

## 浦 昭二君

うら しょうじ

(昭和2年11月24日生)



浦 昭二君は、永年にわたり情報処理の広範な分野で数多くの独創的な研究業績をあげられ、また、教育にも熱心に取り組んで参られました。

特に、日本における官能検査の草分けとして有名ですが、プログラミング・シンポジウムの初代幹事長を10年続けられ、コンピュータの創世期におけるソフトウェアの基盤を確立されました。その後、情報システム研究会を創設し、人間中心の情報システムの在り方に関する指針を示され、今日でも重要な指針になっております。

一方、教育分野では、慶應義塾大学教授として、また、同大学退職後は新潟国際情報大学情報文化学部長として、情報システム分野における後進の育成指導にあたられております。特に、「FORTRAN」など情報処理、プログラミングに関する多くの著書を通じて多くの人を育てられました。

さらに、本学会理事、監事、副会長を歴任され、学会の発展に多大な功績を残され、情報システム分野の研究と教育に尽くされた功績は誠に顕著なものとあります。

## 村田健郎君

むら た けん ろう

(大正12年10月4日生)



村田健郎君は(株)日立製作所において永年にわたり大型計算機の研究開発およびその製作に携わり、多大な優れた成果を挙げられました。特に、東京大学でのブラウン管メモリ計算機TAC、国産初の大型機HITAC5020、通産省の超高性能電子計算機プロジェクトなど国産コンピュータの歴史に残る名機的设计、開発に指導的役割を果たしてこられました。

また、スーパーコンピュータによる数値解析の分野でも多くの研究業績を残されました。特に仮想記憶方式下での大形行列計算技法に関する一連の研究では高い評価を受けています。

一方、教育の分野では、図書館情報大学、神奈川大学教授として情報工学分野における後進の育成と指導に精力的にあたられています。

さらに、学会活動では、本学会数値計算委員会の要職を歴任され、本学会の学術上の発展に多大の貢献を残されました。これら情報処理分野の研究開発と教育に尽くされた功績は誠に顕著なものとあります。